

ジブチ月例報告 (2025年3月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

- 3月5日、ジブチ市内の公用地における壁建設の許可を巡りジブチ市長がジブチ県知事と対立し、地方分権担当大臣がジブチ市長を1か月の停職処分に処したという情報がSNSで拡散された。3月末の時点でジブチ市長は職務復帰していたと見られる。
- 3月13日、国民議会財務委員会が社会開発庁(ADDS)、ジブチ郵便局、国民議会を含む複数の公共機関の財務諸表を審査し、修正しつつ承認した。
- 3月19日、国民議会にて2025年第一回通常会期の公開会議が行われた。会議では、公共財政、社会改革、医療インフラに関する10法案が審議・採択された。ディレイタ国会議長、アブドゥルカデル首相、各大臣、全議員が出席した。

【外政】

- 3月4日、エジプトで開催されたアラブ連盟の臨時首脳会議に参加したゲレ大統領はパレスチナの神聖さと領土保全に対するジブチのコミットメントを再確認した。
- 3月8日、ゲレ大統領はラマダン開始に際し、イエメン、サウジアラビア、カタール、エジプト、アルジェリア、モロッコ、スーダン、パレスチナ、トルコなどアラブ系数か国の駐ジブチ大使を大統領私邸に招待し祝意を伝達した。
- 3月9日、ゲレ大統領はAUC委員長を2期務め、3月中旬に退任することになるムーサ・ファキ・マハマト氏の表敬訪問を受けた。
- 3月9日、ゲレ大統領は、IGADにおけるスーダンの活動再開を希望する旨のブルハン暫定評議会議長書簡を持参したマリク・アッガール副評議長と面談し、同決断を歓迎。スーダン情勢について意見交換を実施した。
- 3月12日、ゲレ大統領は、南スーダン情勢に関する第43回 IGAD 特別首脳オンライン会合を招集し、国民統合暫定政府内の政治的緊張、暴力発生等の情勢悪化についての懸念を表明し、同政府指導部に対し2018年の R-ARCSS 合意へのコミットメントを呼びかけ、ケニアによるトゥマイニ・イニシアティブを通じた南スーダン支援への IGAD のコミットメントを確認した。
- 3月15日、ユスフ前ジブチ外相はAUC新委員長としての執務を開始した。
- 3月23日、エチオピアのアビィ首相、与党・繁栄党の副議長、財務大臣、国家安全保障顧問、州知事等はジブチを訪問し、両国間の関係強化と地域問題を議論した。

【経済・開発】

- 2月27日、ジブチ大学、ジブチ地熱開発公社(ODDEG、Office djiboutien de développement de l'énergie géothermique)、米国のネバダ大学リノ校(University of

Nevada, Reno)の三者協定署名式がアイラホテル(Ayla Hotel)で行われた。この合意は同週にジブチ大学で開催された「エネルギーとその応用に関する国際会議(ICEA2025)」の一環であり、ジブチにおける地熱エネルギー技術と研究の強化に向けたもの。

●2月27日、ジブチ、エチオピア、南スーダン、ウガンダのインフラ・交通大臣は DESSO 回廊管理局の設立に関する覚書に署名した。今後、同管理局を正式に設立する多国間協定が技術委員会によって策定される予定。

●3月10日、ジブチ農業・水・漁業・畜産・水産資源省はディキル及びタジュラのロジスティクス拠点に重機6台が到着したと発表した。これは貧困・干ばつ対策のための水資源開発及びアクセス改善を目的とした政府計画に基づくもの。

●3月12日、ハディ港湾・フリーゾーン庁長官の立ち合いの下、タジュラ港のカミル会長及びサウジアラビア系のRSGTI(Red Sea Gateway Terminal International)のガガン投資部長は、タジュラ港の30年間の管理権譲渡に関する覚書に署名。この合意により、ジブチの港は、すでに紅海で確固たる地位を築いているRSGTIの下、サウジアラビアの複数の港湾インフラと共に管理されることになる。ジブチにとって、この譲渡合意は港湾インフラの近代化と最適化の一環であり、ジブチの海上主要路における競争力強化を目指す。

●3月14日、世界銀行は、ジブチのサービスが不十分な地域の社会経済基盤を強化するために、3,100万ドルの統合コミュニティ強靱化プロジェクトを承認した。同プロジェクトは、インフラと基本サービスの改善、社会的保護網の強化、脆弱なコミュニティのための経済機会の多様化に焦点を当て、社会的保護網を生計手段と広範な社会経済開発に統合するもの。ディキル、オボック、アリサビエ地域の難民を受け入れる地域の強靱性、包摂性、持続可能な経済成長促進を目指す。

【保健・衛生・社会】

●3月1日ラマダンが開始し、3月29日に終了した。ゲレ大統領は、両方の機会にジブチ国民に向けた祝賀メッセージを発表した。

●3月12日、ジブチサッカー連盟のスレイマン(Souleiman Hassan Waberi)会長が国際サッカー連盟(FIFA)理事に選出された。

●3月24日、ゲレ大統領主催の第25回聖典コーラン暗唱コンテストが実施された。ジブチ、ソマリア、エチオピア、イエメン、ケニア等の他の国々から参加があった。

【軍事・治安】

●3月17日、アブドゥルカデル首相はジブチ士官学校生徒の表敬訪問を受けた。

【日本関係】

●3月1日、原大使は駐ジブチ印大使館が開催した、印大使出身地であるミゾラム州に関するイベントに参加した。

- 3月2日、原大使はイブラヒム駐日ジブチ大使との間で、特に大阪・関西万博とTICAD 9の日本開催を視野に入れ、2025年度の日ジブチ間の要人往来等について確認した。
- 3月3日、原大使はひな祭りに際し、国民議会、各省庁軍、ビジネス界、文化団体等のジブチの各分野を代表する女性たちや外交団、国際機関の女性職員を招待してレセプションを開催した。
- 3月6日、原大使は EUの海賊対処作戦である「ATALANTA」に参加する西空軍部隊の指揮官交代式に参加するためジブチ来訪中の、西軍統合作戦司令部作戦担当参謀長補佐であるパスクアル准将の表敬訪問を受けた。
- 3月8日、原大使は国際女性デーに際し、ウォックナー政府間開発機構(IGAD)事務局長と面会し、アフリカの角の平和と安定の分野における女性と若者のエンパワーメントを目的とし日本政府が資金援助したプロジェクトの立ち上げを発表した。
- 3月9日、原大使は JICAジブチ事務所の井上新所長と金田前所長との間で意見交換を行った。
- 3月11日、原大使はビジネスチャンスを求めてジブチ来訪中(会員企業の1つは、ジブチ観光庁とMOU署名を実施)のインスパイア・アフリカ協会山口会長が率いる日本人ビジネスマン一行との間で懇談を実施した。
- 3月11日、原大使は、JICA帰国研修員同窓会がジブチ市内の東京広場にて開催した東日本大震災追悼式典に参加した。原大使、JICA事務所長及びアブドゥルカデル(Abdoukader Aden Elmi)同窓会会長、ワイス沿岸警備隊長官による記念植樹が行われた。
- 3月12日、原大使は日本が資金を提供し、国際移住機関(IOM)が実施した、ジブチ沿岸警備隊(GCD)の海上搜索救助能力強化プロジェクトの海難救助・通信関連資機材の引渡式に参加した。
- 3月17日、原大使は当地出張中の菅谷・外務省邦人安全担当課長との間で意見交換を行った。
- 3月18日、原大使はジブチ出張中の戸田建設一行の訪問を受け、ジブチ北部における再生可能エネルギーの開発及び利用に関する意見交換を行った。
- 3月19日、原大使はアリサビエ州議会にて、草の根人間の安全保障・無償資金協力「アリサビエ州女性自立支援センター建設計画」に係る署名式に出席した。
- 3月24日、原大使は2012年から2015年に駐ジブチ日本大使を務めた西岡帝京大学教授の表敬訪問を受け、地域情勢等に関する意見交換を行った。
- 3月26日、原大使は4月に日本に出発するジブチ人国費留学生2名と国費留学生OB/OG2名と懇談を実施した。
- 3月30日、原大使は駐ジブチ伊軍基地を離任するカプリグリオーネ司令官とササーラ新司令官との間で、地域情勢、両国の協力等について意見交換を行った。

(了)